

AllyWare™ v2.7 Release Notes

February 4, 2025

NetAlly のネットワークテストとアナライザは、AllyWare と呼ぶ共通テクノロジープラットフォーム上に構築されています。本リリースノートでは、バージョン2.7に含まれる新機能および改善点について簡単に説明します。

注意: 特定の機能や強化は、指定された製品にのみ適用されます。

目次

バージョン2.7の新機能および改善点	2
Wi-Fi 7の可視化	2
自動テストの改善	4
有線テストの強化	6
AirMapperの更新	9
その他の改善	11
バージョン2.7のバグ修正および改善	15
既知の問題	15
バージョン2.7へのアップグレード方法	16

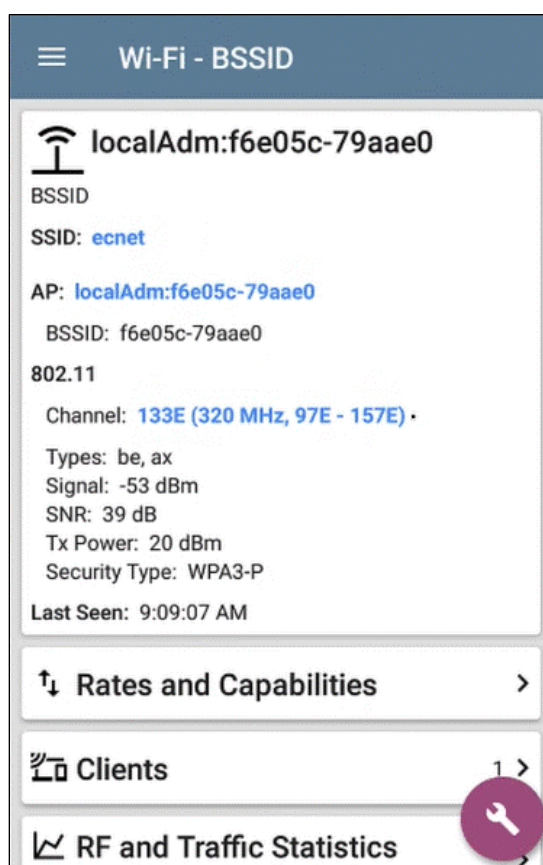
バージョン2.7の新機能および改善点

Wi-Fi 7の可視化

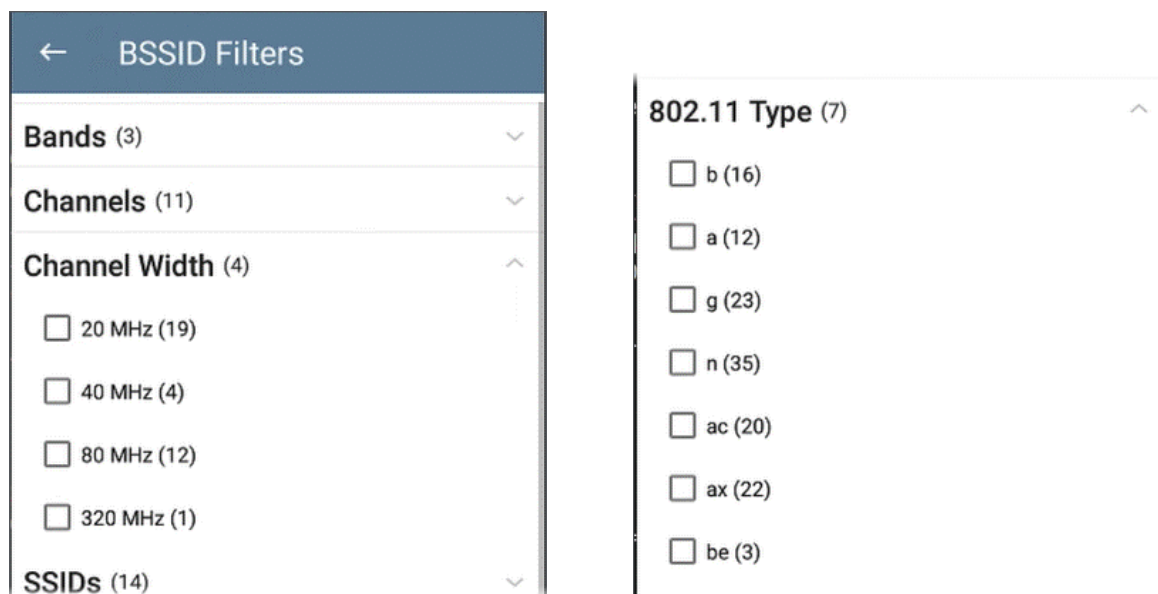
EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

この AllyWare v2.7 のリリースから、テスト内の Wi-Fi 6 無線機能を使用して、2.4/5/6 GHz 帯域で Wi-Fi 7 (802.11be) デバイスを発見および位置特定できるようになります！ Wi-Fi 7 は、Wi-Fi ネットワークのスループットと安定性を向上させるための新しい技術を導入していますが、基本的な機能は変わっていません。そのため、現在お使いの NetAlly テスタに搭載されている Wi-Fi 6 無線機能を使って、接続テスト、ローミングテスト、Ping/TCP テスト、iPerf テスト、ディスカバリテストなどを実行できます。

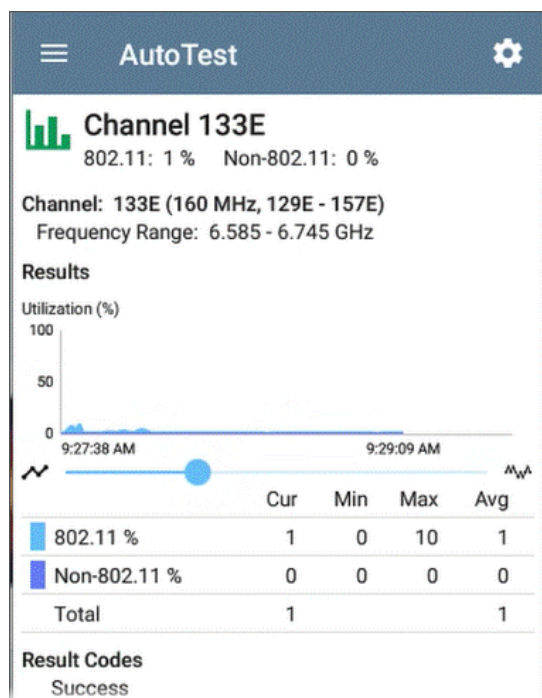
NetAlly の Wi-Fi テスタは、アクセスポイント (AP) およびクライアントで使用されている 802.11be メディアタイプを検出し、ワイヤレス管理フレームで報告された内容を表示できるようになります。



テストが Wi-Fi 7 トラフィックを検出すると、**320 MHz** チャンネルおよび **802.11be** に関連する並べ替えおよびフィルタリングオプションが表示されます。



また、Wi-Fi 7 ネットワークに接続しながら自動テストを実行し、接続性やローミング性能を簡単に検証できるようになります。



注意: 接続性の自動テストを実行する際、Wi-Fi 7 アクセスポイントには Wi-Fi 6 のデータレート（速度）でしか接続できません。

自動テストの改善

すべてのAllyWare製品

詳細なDHCPオプション結果

DHCPオプションは、ネットワークに接続されるデバイス（例：Wi-Fi アクセスポイント）の設定プロセスを自動化するために一般的に使用されますが、今回の改善により、設定が正しく行われているかを検証するのがこれまでよりも簡単になります！ユーザが**自動テスト設定プロファイル** > **IP 設定画面**からDHCP要求オプションを選択すると、テストされるすべてのオプションのリストを含む新しいテーブルがDHCPテスト結果の下に表示されます。テーブルの各行には、オプション名、番号、および受信した値が表示されます。もしオプションが受信されなかった場合は、ダブルダッシュと共に黄色い警告ドットが表示されます。

DHCP Request Options	
Option	Value
Time Offset (2)	7h
Time Server (4)	1.1.1.1, 2.2.2.2
Name Server (5)	3.3.3.3, 4.4.4.4
Log Server (7)	5.5.5.5, 6.6.6.6
Host Name (12)	-- ●
Boot File Size (13)	65535

/31 サブネットマスクを使用した静的 IP

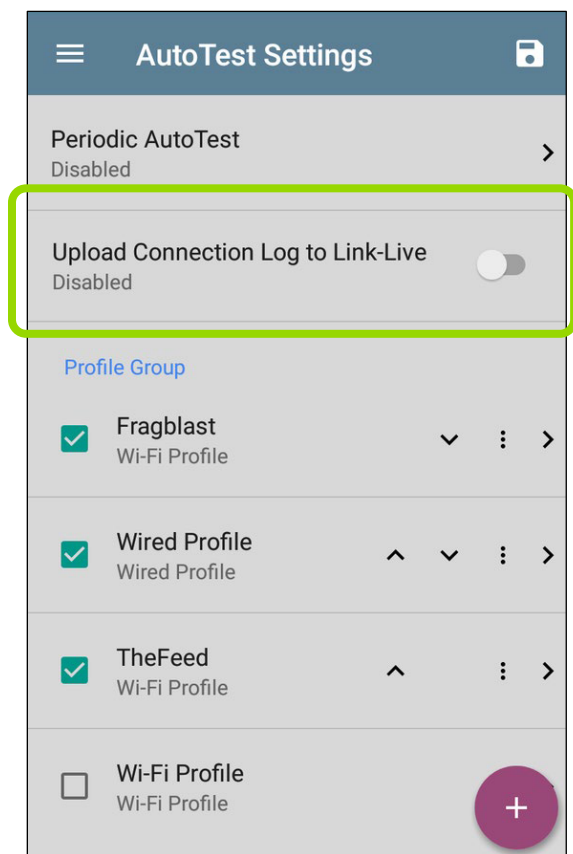
これは、通常、ポイント・ツー・ポイント(P2P)接続において使用されるサブネットマスクです。/31 サブネットマスクは、2つのIPアドレスを持つ小さなサブネットを作成し、特定の接続間で通信するために使われます。このサブネットでは、ホストアドレスとしてすべてのIPアドレスを使用できるため、通常のサブネットとは異なり、ネットワークとブロードキャストアドレスが存在しません。



接続ログの自動アップロード

接続テストのワークフローをさらに簡素化しました！これからは、接続ログを手動で自動テストの結果に添付する必要はありません。「接続ログを Link-Live にアップロード」設定を有効にすると、自動テストプロファイルが実行されるたびに、テストが自動的に接続ログを Link-Live にアップロードします。

デフォルトでは、この設定は無効になっており、ログは自動的にアップロードされません。無効のままだと、さまざまな自動テストプロファイル結果画面から接続ログを表示し、手動でアップロードすることができます。



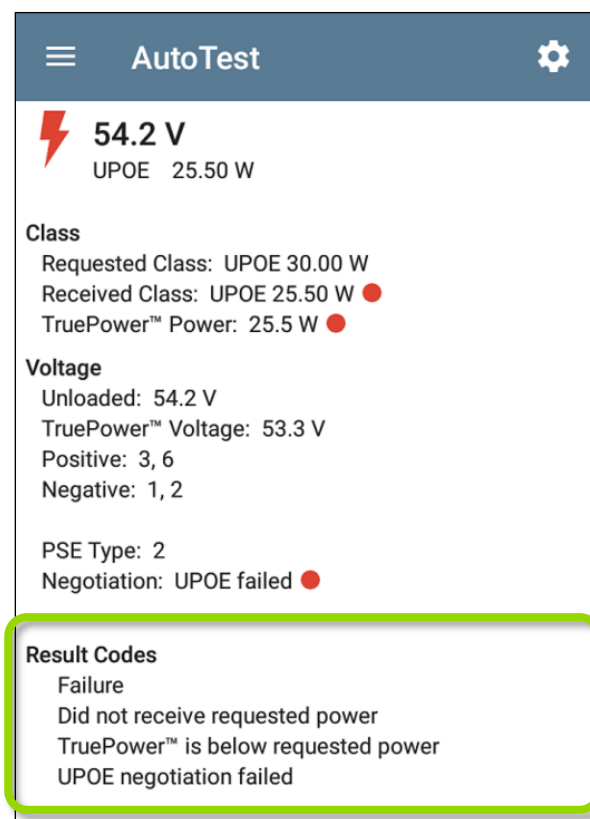
有線テストの強化

EtherScope nXG, CyberScope, CyberScope XRF, LinkRunner 10G, LinkRunner AT 3000/4000

PoE障害結果の詳細表示

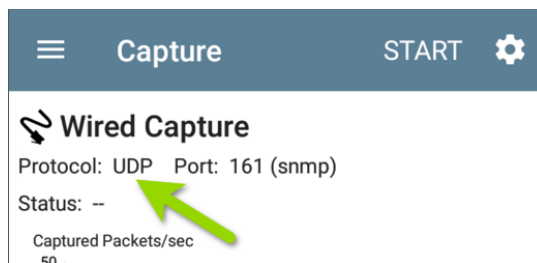
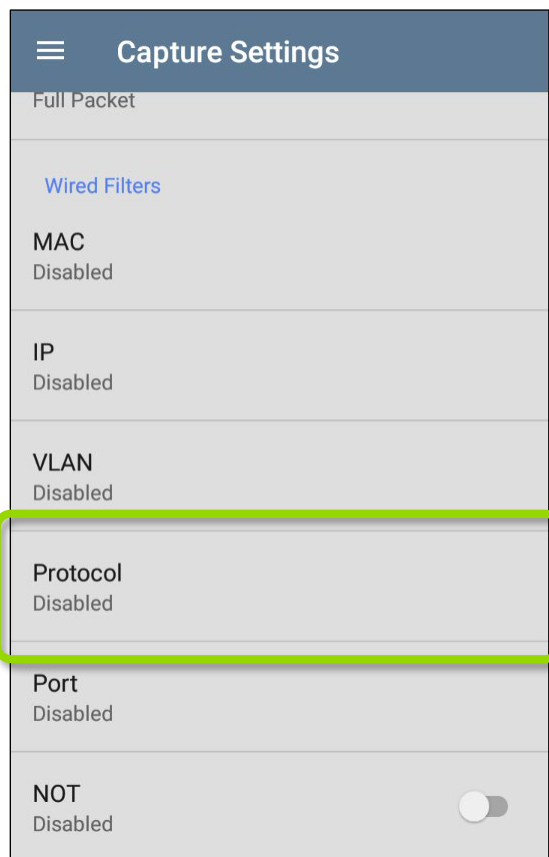
Power over Ethernet (PoE) の問題の根本原因を特定するのが、もう面倒な作業ではなくなりました。有線自動テストプロファイルの PoE テストは、テストの失敗原因を示す追加の結果コードを表示するようになりました。新しい結果コードには以下が含まれます。

- 要求した電力が受信されなかった
- LLDPネゴシエーション失敗
- UPOEネゴシエーション失敗
- 認識できない電源
- TruePower (実際の供給電力) が要求値を下回る
- TruePower 電圧が許容範囲外



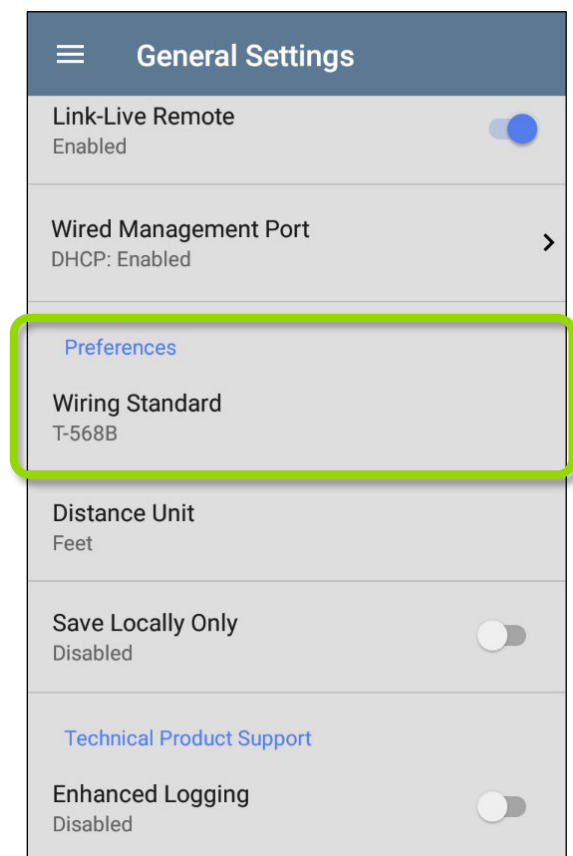
有線プロトコルキャプチャフィルタ

パケット解析を簡素化し、見たいトラフィックの種類に集中できるようになりました。キャプチャアプリでは、ユーザがプロトコルフィルタ(TCP または UDP)を指定できるようになり、デフォルトの「無効」のままにすると、両方のプロトコルをキャプチャできます。選択したプロトコルは、キャプチャ結果画面に表示されます。



T-568A と T-568B の配線カラー間での切り替えに対応しました。

新しい「配線標準」設定（一般設定の下）は、ケーブルテストおよびスイッチアプリで表示される配線カラーを制御します。使用している配線標準（T-568A または T-568B）を選択すると、適切なケーブルカラーが表示されます。



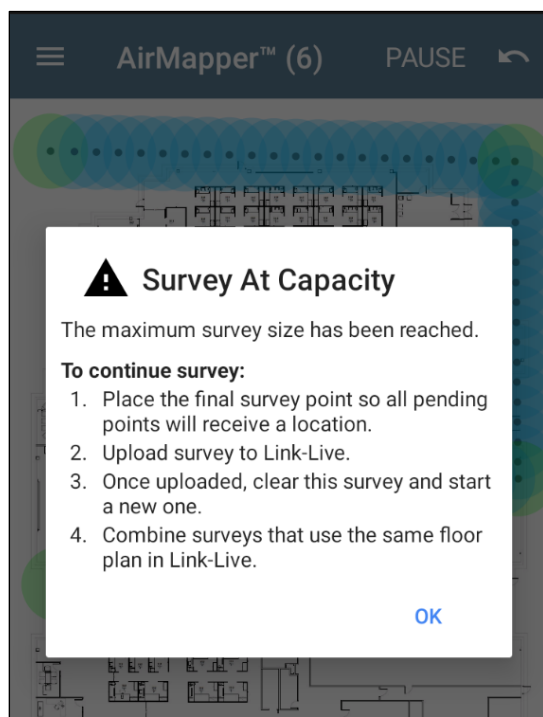
AirMapper の更新

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

サイトサーベイの強化

AirMapperのサーベイがさらに強化されました。メモリ使用がより効率的になり、Wi-FiやBluetoothの長時間にわたるサイトサーベイがサポートされるようになりました。

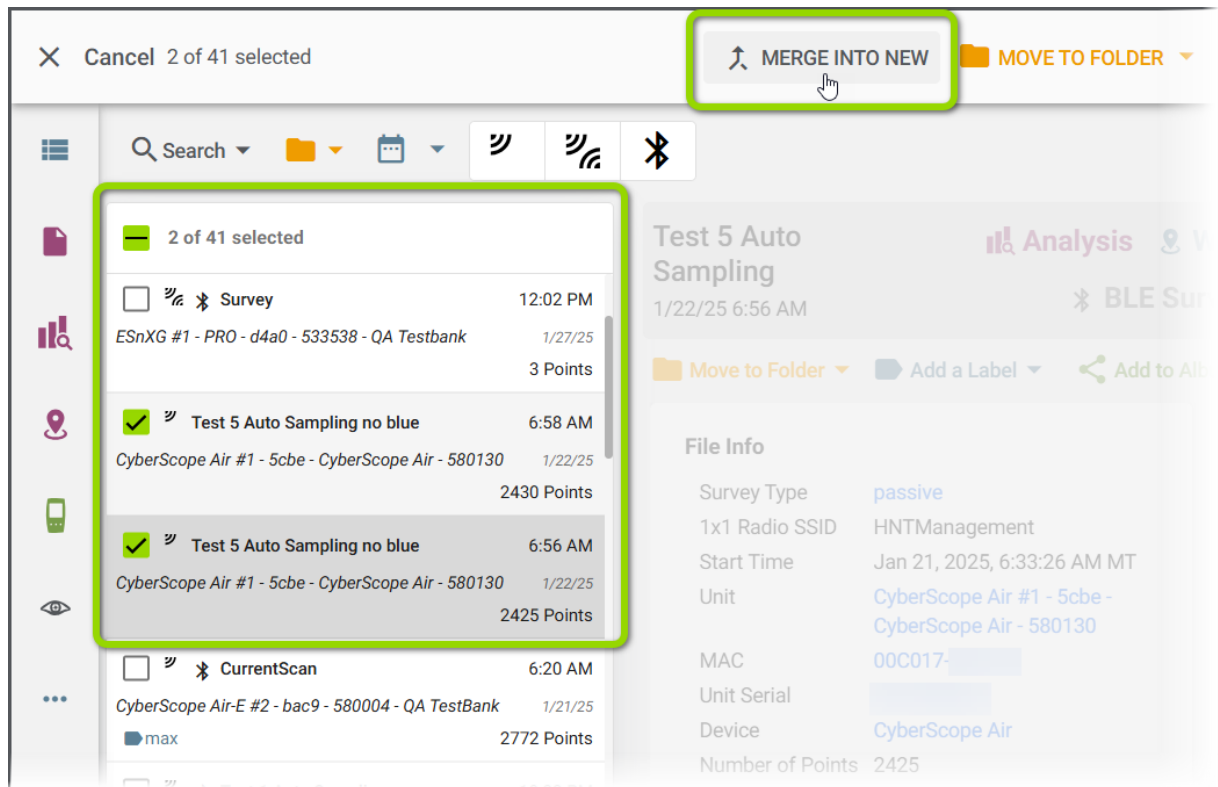
データの損失を防ぐために、サーベイのための内部メモリの空き容量が少なくなった場合や、サーベイがメモリ容量に達した場合に、新しいポップアップダイアログがユーザに警告を表示します。



ポップアップの指示に従って、サーベイファイルを完了させ、Link-Liveにアップロードしてください。

Link-Liveでサーベイファイルをマージするには:

1. マージしたい各サーベイデータの横にあるチェックボックスを選択します。



2. 画面上部の「MERGE INTO NEW」(新しい物へマージ)ボタンをクリックします。
3. マージした際のサーベイデータの名前を入力します。
4. 「AP Locations have not changed」(APの位置は変更されていません)オプションが選択されていることを確認します。

Merge 2 Surveys

Name*

Labels

☒ AP locations have not changed

☐ AP locations may have changed (AP on a Stick)

Cancel
Generate

5. 「Generate」(生成)ボタンをクリックします。

Wi-Fi 解析スナップショットのアップロード

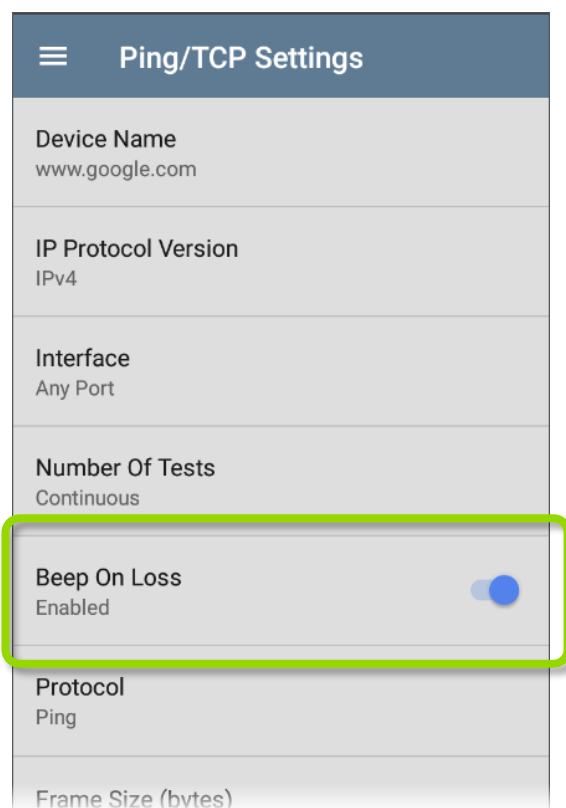
1回のウォークスルーで収集できるデータが多いほど、より効果的です。今回のリリースから、ユーザが AirMapper ファイルを Link-Live に保存すると、テストはディスカバリおよび Wi-Fi 解析ファイルもアップロードし、データ解析をサポートします。

その他の改善

すべてのAllyWare製品

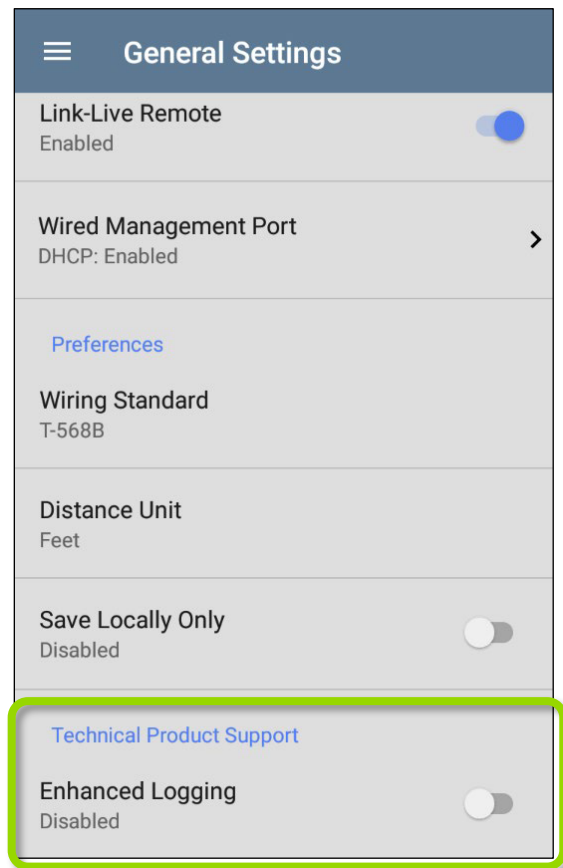
Ping/TCPテスト時のパケットロス通知音

この設定は、Ping/TCPテスト中にパケットロスが検出された際に、音声のビーブ音を有効または無効にするものです。ビーブ音は、Ping/TCPアプリが表示されていなくても鳴ります。



強化されたログレベル

この設定により、デバイスは高度なログ詳細を収集できるようになり、NetAlly のカスタマーサポートチームがテストの問題をトラブルシューティングする際に利用できます。この設定は、サポートチームから指示があった場合のみ有効にしてください。



リモートロック画面制御

ロック画面設定が有効になっている NetAllyテストをリモートで操作する際、キーボードのF1キーおよびF2キーを使用して、テストの画面をロックまたはアンロックできます。

- PCでリモートテストウィンドウにマウスを移動し、F1を押してロックします。
- ロック画面が表示されている状態で、マウスをウィンドウに移動し、F2を押してアンロックします。

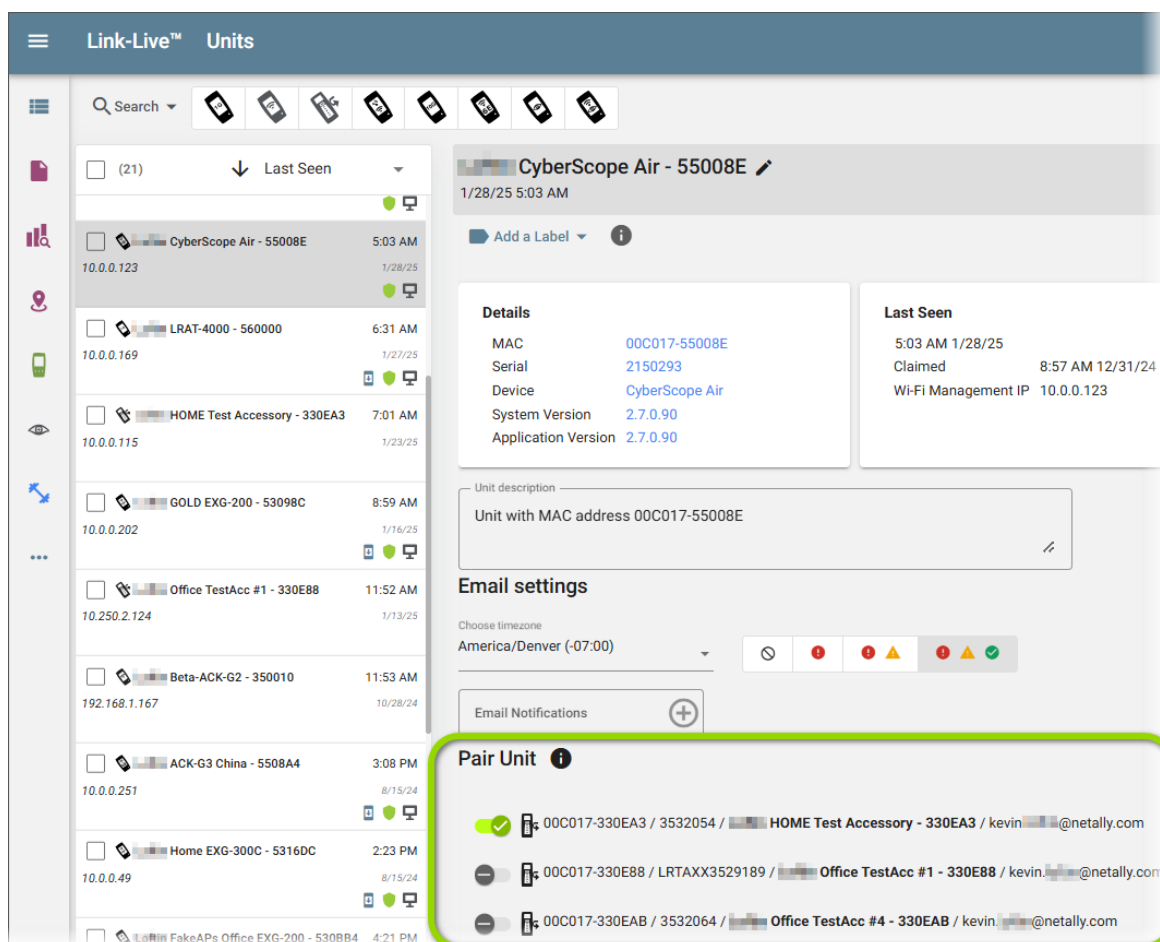
CyberScope Air

LinkSprinterとテストアクセサリをLink-Liveとペアリングする機能

CyberScope AirをテストアクセサリやLinkSprinterとペアリングすることで、Wi-Fiのテスト結果とともに有線のテスト結果もLink-Live.comに表示されるようになります。

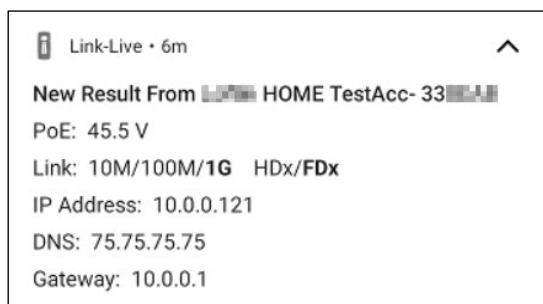
CyberScopeをLinkSprinterまたはテストアクセサリとLink-Liveでペアリングする方法:

1. Link-Live.comでペアリングする場合:
LinkSprinterまたはテストアクセサリとペアリングしたいCyberScope Airを選択します。
2. ペアリングするユニットの選択:
「ペアユニット (Pair Unit)」のリストから、ペアリングしたいユニットを選択します。



CyberScope Airがこれらの有線デバイスとペアリングされ、LinkSprinterまたはテストアクセサリからのテスト結果が利用可能な場合、通知バーの上部に通知アイコン  が表示されます。

ペアリングされたテストアクセサリまたはLinkSprinterでテストを実行すると、CyberScope Airユニットにその有線テストの詳細が通知として表示されます。



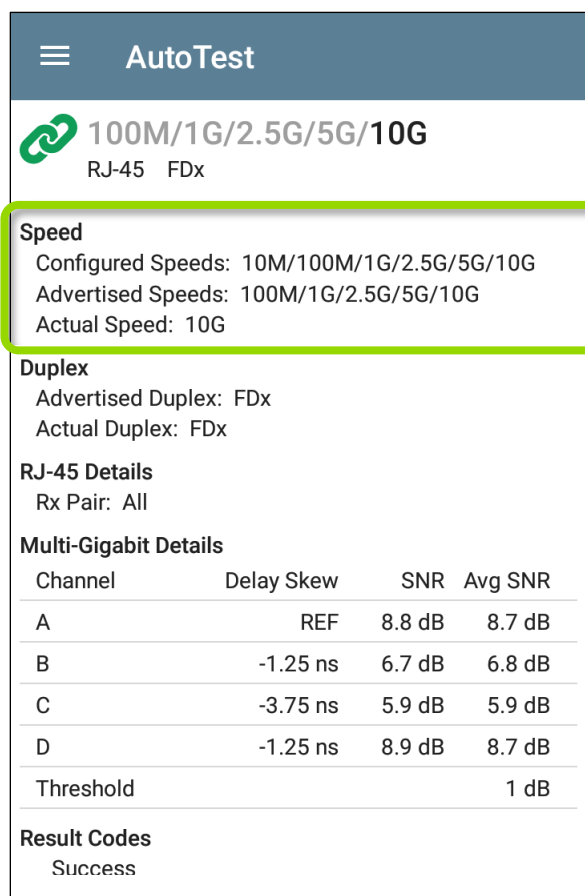
LinkRunner AT 3000 and 4000, LinkRunner 10G, EtherScope nXG, CyberScope

有線リンクテスト結果の設定済み速度

自動テストの有線リンク結果に新しく追加された「設定Speeds (Configured Speeds)」フィールドには、有線接続のSpeed/Duplex設定でユーザーが選択した速度が表示されます。

Speed/Duplex設定で「Auto (自動)」が選択されている場合、このフィールドにはNetAllyテストが対応している速度が表示されます。

以下の例の画像は、LinkRunner 10Gを示しています。



AutoTest

100M/1G/2.5G/5G/10G
RJ-45 FDx

Speed
Configured Speeds: 10M/100M/1G/2.5G/5G/10G
Advertised Speeds: 100M/1G/2.5G/5G/10G
Actual Speed: 10G

Duplex
Advertised Duplex: FDx
Actual Duplex: FDx

RJ-45 Details
Rx Pair: All

Multi-Gigabit Details

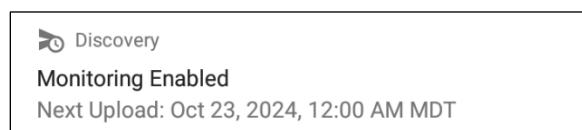
Channel	Delay Skew	SNR	Avg SNR
A	REF	8.8 dB	8.7 dB
B	-1.25 ns	6.7 dB	6.8 dB
C	-3.75 ns	5.9 dB	5.9 dB
D	-1.25 ns	8.9 dB	8.7 dB
Threshold			1 dB

Result Codes
Success

CyberScope and CyberScope Air

通知をタップしてディスカバリ監視設定を開く

ユーザーは、CyberScopeの「モニタ有効 (Monitoring Enabled)」通知をタップすることで、ディスカバリモニタ (Discovery Monitoring Settings) 画面を開くことができるようになりました。



Discovery

Monitoring Enabled
Next Upload: Oct 23, 2024, 12:00 AM MDT

バージョン 2.7のバグ修正と改善

- #171797075 – ケーブルテストが、2ペアのみを使用するケーブル(例:産業用イーサネット)に対してもシールド測定を実行できるようになりました。
- #188440699, #188418631 – SFPポートが1000 Mbpsに固定設定されている場合でも、正しくリンクできるようになりました。
- #188187124 – LinkRunner AT 4000のケーブルテストで、ピン6が欠損している場合でもケーブルIDが表示されるようになりました。
- #188538765 – 自動テストで、Evertz Microsystems製スイッチに対して正しい最寄りのスイッチ情報を表示するよう改善されました。

既知の問題

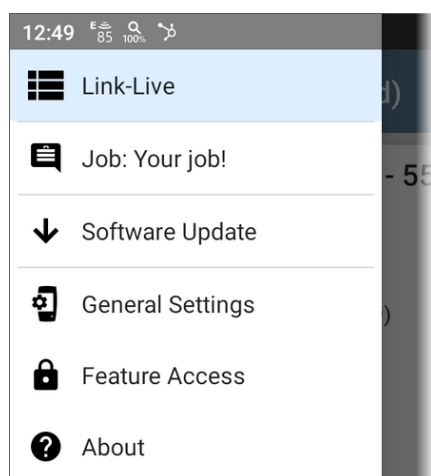
- #188628021 – 一部のテストが、リンクできない速度に設定されたスイッチポートに接続されている場合、30秒ごとに自動テストを自発的に実行することがあります。
- #183290956 – Link-Liveへのファイルアップロード時、共有ダイアログの表示に数秒かかることがあります。
- #188087176 – ディスカバリの進行状況が100%に達する前にユーザが手動で解析スナップショットをLink-Liveへアップロードすると、トポロジマップに接続ラインが正しく表示されません。
- #187187086 – TRENDnet AC1200 USB Wi-Fiアダプタは、LinkRunner 10Gでは動作しません。

バージョン2.7へのアップグレード

このソフトウェアアップデートは、AllyCareサポート契約の重要な特典です。

Link-Live.comにユニットを登録している場合、Over the Air (OTA) ファームウェア更新手順に従うことを強くお勧めします。

1. ソフトウェアアップデートの確認
ホーム画面からLink-Liveアプリ  を開き、利用可能なソフトウェア・アップデートを確認できます。
2. Link-Liveアプリでの操作
アプリ内でメニューアイコンをタップするか、右にスワイプして左側のナビゲーションドロワーを開きます。



3. ソフトウェア・アップデート
「ソフトウェア・アップデート (Software Update)」をタップします。ソフトウェア・アップデート画面が開き、利用可能なアップデートのバージョン番号が表示されます。
4. ダウンロードとインストール
「ダウンロード + インストール (Download + Install)」をタップしてシステムを更新します。

NetAlly製品をご利用いただき、ありがとうございます！